

山行報告書

通算山行NO	No. 131S	報告者	来生 博子
年月日	'98年 8月 9日 (日曜日) ~ '98年 8月 13日 (木曜日)		
山行名	東北ツアー		
山名	朝日連峰		
この山の セールスポイント	花と清水豊富な奥深い後線の散策		

コース 及 タイム	9日	<p>☂曇り散雨、夕方が晴れ 裾野市役所発am4:00 → 御殿場IC4:28 → 山北4:40 → 海老名5:03 → 横浜 → 東名川崎 → 東京IC5:20 → 用賀IC5:26(渋谷線3号入) → 霞が関JCT右 → 環C1左 → 池袋5号線入 → 早稲田 → 護国寺 → 東池袋 → 大宮5:58(外環 美女木JCT右へ) → 東北道へ(左) → 浦和IC6:08 → 蓮田SA6:18~6:30(休) → 久喜 → 羽生 → 佐野6:53 → 大谷7:53 → 黒磯 → 那須高原 → 福島県境 8:38 → 白河 → 阿武隈PA → 矢吹 → 須賀川9:10 → 安積PA9:14~9:30 (休・ガソリン) → 磐越道分岐9:40 → 国見PA10:20 → 宮城県境 → 古関PA10:55(休) → 山形県境笹谷トンネル → 山形蔵王 → 山形北天童 → 寒河江IC出11:30・市内でガソリン補給 → 大沼の名勝地《浮島》散策、昼食 12:35~13:45 → 朝日町(R9) → 木川ダム14:20 → 朝日鉱泉着(ナチュラル リストの家)14:45(泊)</p>
	10日	<p>☀快晴 ナチュラルリストの家…鳥原山…小朝日岳…大朝日岳…中岳…竜門山・竜門小屋泊</p>
	11日	<p>☀曇り時々晴れ 寒江山…北寒江山…三方境…狐穴小屋…以東岳…狐穴小屋…天狗角力取山小屋泊</p>
	12日	<p>☂早朝雨のち晴れ 角力取小屋…竜ガ池…南俣沢…バカ平…大井沢出合…西川町・原 → タクシーにて 地藏峠経由(ナチュラルリストの家)帰着 → 白河(泊)</p>
	13日	<p>☀快晴 23:45起床. 0:05出発 → 那須高原0:15 → 佐野SA1:25~1:35(休) → 川口JCT → 5号線入(箱崎・銀座方面) → 扇大橋 → 小菅JCTより 湾岸6号向島線(三郷の逆方向) → 向島2:35 → 箱崎 → 銀座 → 芝公園入口を 右通過 → 谷町JCTより3号線入(渋谷線) → 東名高速入3:05 → 御殿場4:05 → 裾野5:00</p>

標高差	△S	T	≠	M	体力度	1	2	3	4	⑤	6
	▽T	G	≠	M	技術度	1	2	③	4	5	6

走行距離	裾野 ~ 朝日鉱泉	≠	600 km	展望度	1	2	3	4	5	⑥
------	-----------	---	--------	-----	---	---	---	---	---	---

参加者 役目	CL	写真	後藤 隆徳	51	記録	飯塚 周一	56	餅	ｽﾗｲﾄﾞ	加藤 秀子	49
	SL	記録	大根田元男	62	記録	河合 依代	51	鹽		高岡八千代	60
	副	記録	来生 博子	49	計 7名						

8月も中旬になるのに、梅雨前線の停滞で打撃を受けた朝日鉱泉への通行ができず、1日遅らせての決行となった。家庭で女一人の身には、長い山行前の1日の余裕がとても有り難い。身も心も大連峰の縦走に備えることができ、晴れ晴れとこの日を迎えた。

まだうす暗い、御殿場の高岡宅には大根田が来ていない。裾野からノンストップ、10分で来てしまったのでは仕方ないか。到着を待つ。

カーブの連続する山北の〈魔のカーブ〉あたりから空が白んできた。しかし、薄霧に一面覆われている。時々の雨は東京ICを越えると全く降った形跡はなかった。首都高速道通過にはいつもながら緊張が、運転席から車内全体に伝染する。道路標識とマップを見比べ右だ左だ。

東北道に入り、一休み、会長から加藤に運転交替。折もおり、帰省の車らしきが多い。オルゴールをよく鳴らす加藤は、速度90まで落ちたのが歯痒そう。

空も明るく、♪幸せの、幸せの太陽が昇る〜♪と車内にテープの曲が都合よく流れ偉大な朝日連峰に向かう気分を盛り上げる。日焼けしない程度のいい天気だといいいねえ。の願望に、飯塚が「よし、任せなさい。」のちに、この力強い言葉が効いたように降りたかった雨も降らず主の2日間いい天気だったのである。私はこれまでになく焼けてしまい、腕はアナグマの手、顔といったら器量を更に落とし、短髪ですっかり出た首も、魅力のうなじなんて程遠いものになってしまったのだ。

鹿沼から磐越道路の分岐まで自然渋滞や、事故の為の渋滞に何度か遇ったが停滞まではせずにすんだ。上河内町、氏家町あたりの田園は緑たけなわ、台風がこなかった緑の田園は、なぎ倒された所もなく大草原のようで、見る目が澄んでくる。が、雨に多く見舞われた今年の稲穂は短く、実付きが少ないという。米価の値上がりの秋が来る。

福島県の道中はぐずつきが多かったが、笹谷トンネルを抜けた山形県側は晴れだった。日本は長いと思った。それでも3日前、新潟に大洪水を及ぼし多くの犠牲を出した大雨の影響で、大きな最上川は濁り増水している。

寒河江市に入るころから沿道にりんごが目立って仕方がない。もう食べれそうだ。会長の一声に、加藤がおとくいの口利きで立派なつがるりんごを6、7個、りんご畑のおじさんから200円で譲ってもらえた。加藤ならではの特技と言える。

2度目のガソリンを寒河江の市内で補給した後、昼時でもあり《大沼の浮島》という名勝地を巡って昼食をとる。時代を越えてきた由緒ある趣の神社と、何本もの大木、湿原の花咲く池は、かつて植物塊が浮き漂っていたらしい。

西舟渡に出、R9を直進し朝日町に入る。寒河江川に沿って遡ると、対向車の無い事だけを祈りたくもなる狭く切り立った崖っぶちのカーブの多い危険な道が続く。そのカーブの程はカーブミラーにも先が写らないので、突然現れる対向車に度胆を抜かれるのだ。

千尋の谷にガードレールは無く、あっても恐い。反対面は覆いかぶさる様な直壁。口数は次第に少なくなり、加藤の腕をひたすら信じるのみ。

やがて、豪雨で押しながされてきたおびただしい流木でびっしりと埋まった、木川ダムが現れた。この夏、東北を襲った水害の恐ろしさを見た。水勢で草が転び、石が流され土地が抉られた後がそこいらに見られた。山で雨が降らないよう痛切に祈った。

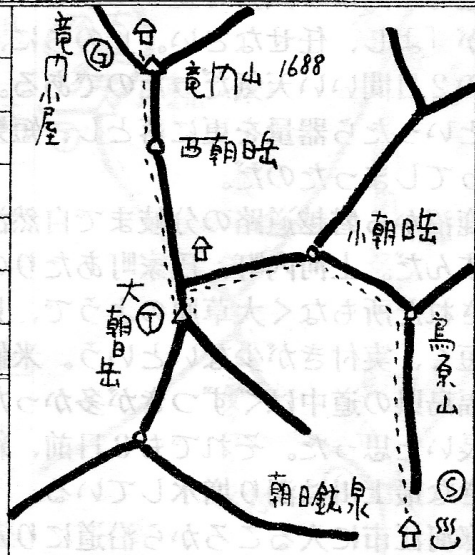
木川ダムから30分もせずに《ナチュラルリストの家》に到着。余裕十分であった。共同物を割り当て秤をだしてそれぞれのザックを計る。平均16~7kgである。

建物の正面に大朝日岳が整ったピラミダルな姿で雲のない空に聳えていた。8人部屋は、のび太君のようなおっとり風の若者と同室になった。彼は20代半ばの佐古泰司君。長野で働きこの1週間の休みを利用して山を歩きながら家のある仙台に帰るといふ、のんびり山行をしていた。佐古君、4日めの雨に順調な行動がとれたろうか。

朝日岳への登山は建物の前を下り、細いつり橋を渡ることから始まる。

山名	朝日連峰 (1,870m)	報告者	大根田元男
この山のセールスポイント	朝日連峰の主稜線縦走のパノラマ歩き		
8月10日～日 コース及び タイム	起床 3:15/4:50～鳥原小屋7:55～小朝日岳9:53～大朝日小屋11:50～大朝日岳 12:10～大朝日小屋 12:28～西朝日岳 13:58～竜門山 14:35～竜門小屋14:42		
標高差	△朝日鉱泉 ～大朝日岳 = 1,320m	体力度	1・2・3・4・5・⑥
	▼ ⁵⁵⁰ ～ ^{1,870} 竜門小屋累計= 1,950m	技術度	1・2・③・4・5・6
		展望度	1・2・3・4・5・⑥

CL	後藤隆徳	51	23年ぶりの朝日岳!
SL	大根田禎	62	遠望は山・山・山。大きい山は良い
	高岡 八代	60	大朝日岳の水は美味しかった
針	来生博子	48	50分に10分のペースで登れて良かった
	河合依代	51	天候に恵まれ可愛い花に会えて最高
	飯塚周一	56	はち切れんばかりのザックを背によく登った!
餅	加藤秀子	48	縦走は登った!という手応え嬉しかった



2
日
目

朝日鉱泉の屋外で朝食をとる。薄明になって、谷あいの奥に黒々と主峰・大朝日岳が望見されて来た。今から、あの山を目指すと思うと身が引き締まる思いがする。宿を出発する人達もおり、私達も後を追うように登山開始。

朝日川に架かる吊り橋を渡り、同宿していた先発グループを追い越す。ジグザグ道の急坂、ブナ林の視界のない道を黙々と歩く。谷川の水音だけはよく聞こえる。植生が少しずつ変わってくるがなかなか尾根筋には出ない。鳥原小屋が見えてきて、ようやく尾根道の木道になり歩き易くホッとす。池塘も見られて気分転換にはよい。花も少しずつ見られるようになってきた。今年はこの地域も花の咲くのが早く完全に秋の花ばかりの様である。

低灌木帯になり左方の大朝日岳を見ながら歩く。鳥原山頂上もよくわからず、通り過ぎてから気がつく程広っばい山頂であった。眼前に小朝日岳が立ちはだかるように見えてきた。かなりの登りである。頂上は360°の展望。大朝日岳への道が尾根添いに蛇行して見られる。一休みしていると同室していた若人(佐古君)が登ってきて出会う。まだ全員が士気旺盛であり心強い。まだ先は長いので小休のみで出発。熊坂下迄は250m余りの急降下歩き。折角高度をかせいできたのに、この分登り返すと思うとガッカリする。

少し登り始めると見通しの効く長いだらだら登り。殆ど草地道なので景色は良い。大朝日岳が段々近づいてくるのがわかるので歩くのに張合いがある。途中に良いお花畑があった。銀玉水では水筒に水の補給。冷たくて美味しい水であった。小さな祠を過ぎると大朝日小屋。タカネナデシコの群生が綺麗に咲いていた。小屋横にリュックを置き、空身になって大朝日岳に登る。頂上はパノラマ。見えるのは山又山ばかりで山登りの冥利に尽きる。

頂上には大勢登っているものと思っていたが、一グループしかいなかった。遠くに今朝出発した朝日鉱泉が豆粒程に見え、大きく迂回して歩いて来たのが見渡せる。頂上でのんびり過ごしたかったが、少しの時間しかとれず写真撮影して直ちに下山する。小屋に戻り、休む間もなく竜門小屋を目指す。広々とした尾根筋。前方に西朝日岳が聳え立っているのが遠く感じられる。右前方に雲の上に浮かぶ月山が、どっしりと裾を広げている姿は立派なものである。

中岳から通って来た道を振り返ると、大朝日岳がピラミッド型に見えて恰好よい。中岳を過ぎてから、今夜宿泊する場所を確保するため来生が一人先行する。河合が遅れぎみになり、皆から激励を受けながら頑張っている。登りになると疲れているのか足が更に重く感じられるようになってきた。竜門山頂上に着き、宿泊する竜門小屋が見えてホッとした気持ちになった。明日登る以東岳が稜線上奥に望見される。今日は此处まで距離を稼げて明日は幾らか楽な行程になりそうだ。小屋前には水場があり、携行しなくて済んだのは大助かりだった。山歩きは人が少ない方が、山の気分に浸れて嬉しい。大勢の人が登っていて混雑していると何となく煩わしさがある。きょうは薄曇であり歩き易かったが長い時間の歩き皆よく頑張った。

自然
の
記述

1. 今の時期では見られるはずの雪渓が一か所もなかった。
2. この山は自然が多くのことっている。



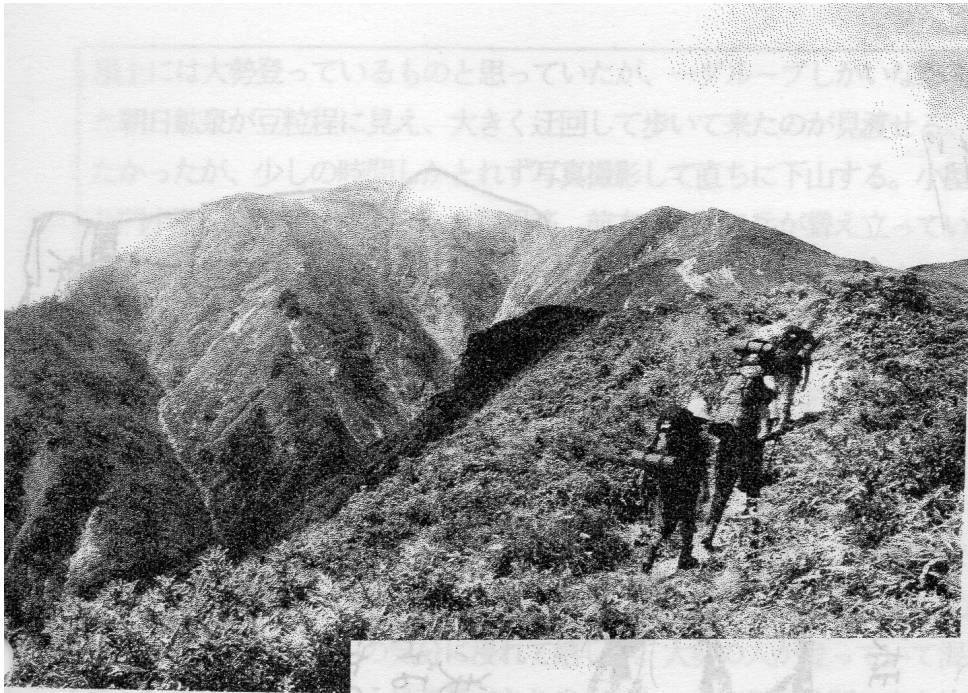
孤穴小屋 管理人 地元西川山岳会の佐藤さんと



(上) 鳥原山の湿原

(中) 鳥原山から小朝日岳(手前)、大朝日岳に向う

(下) 小朝日岳にて後列左が佐古君



- (上) 大朝日岳めざし
- (中) 後藤は23年か
りの大朝日岳
- (下) 8/10の宿庵門
小屋に下る

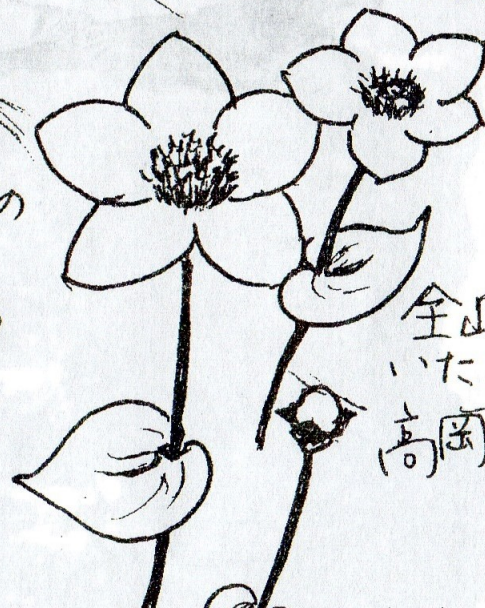
博子の朝日連峰絵日記



ナベラリストの家
のテラスより眺む
大朝日岳。
呂リ橋を渡る
とから始まる
雲むとつばい
西の夜空に
シルエットは形の
良い三角だった。

朝日岳から
竜門小屋までの
長い尾根が
のびる

地球を真



全山に咲いて
いたうめはち草は
高岡さんの好きな花

長野か

大朝岳 1870m!

深夜

11日

初めて見た

チョウジギク

絶壁の岩稜から

美しい山なみに

両側の眼下は深い谷

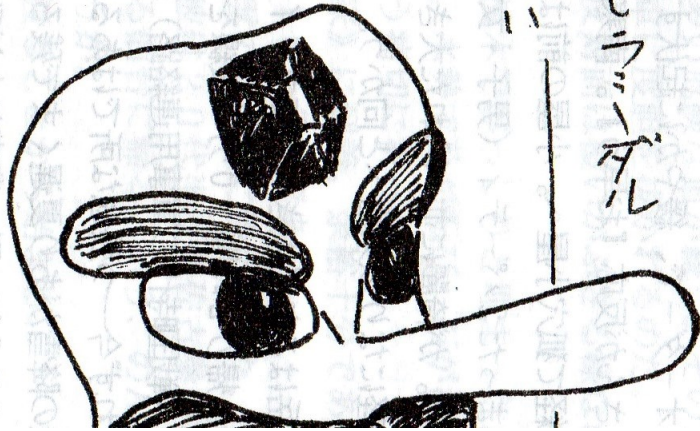
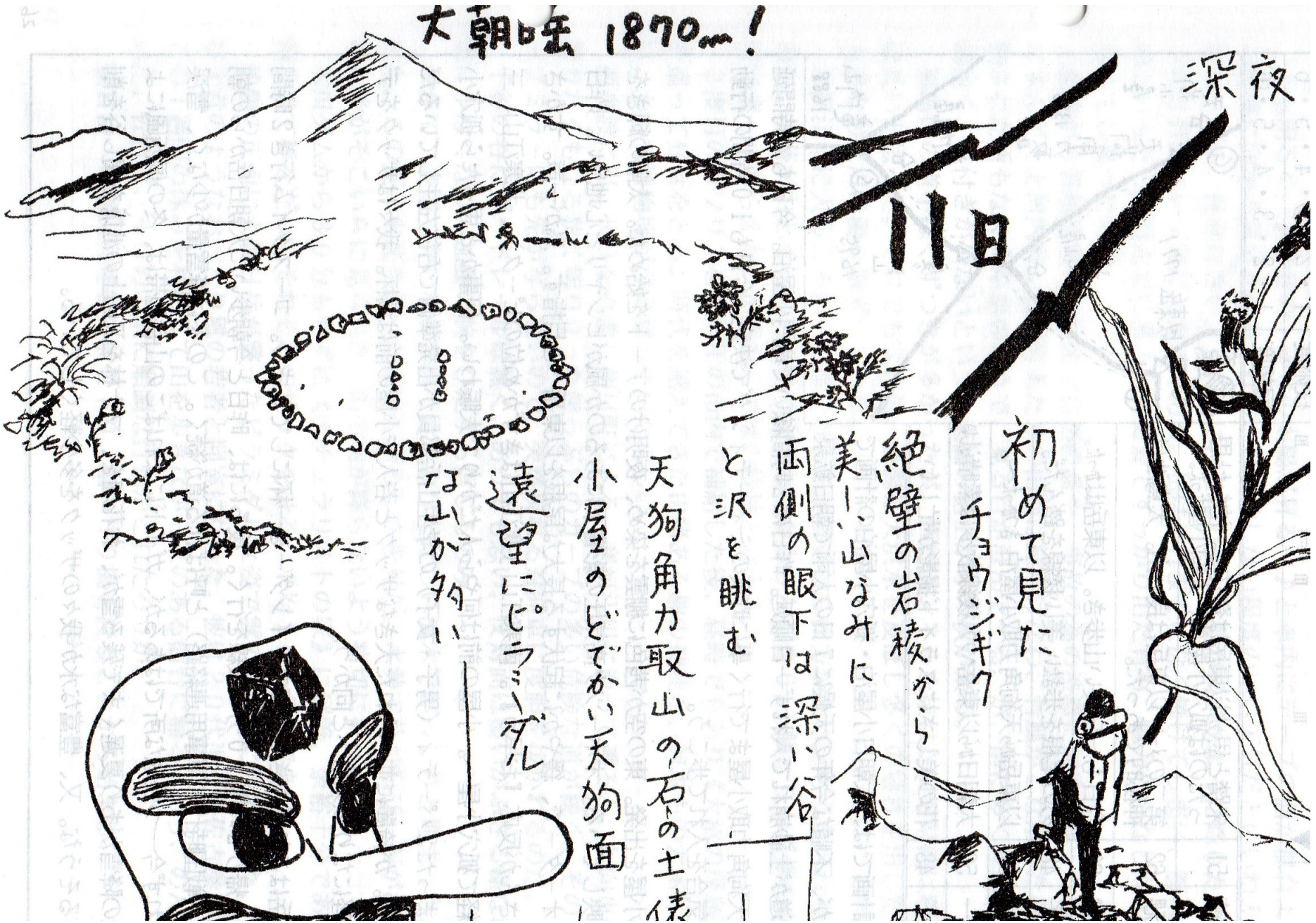
と沢を眺む

天狗角力取山の石の土俵

小屋のどでかい天狗面

遠望にピラミダル

山かた



山名	以東岳 (1,771m)		報告者	飯塚周一			
この山のセールスポイント	男の背中のような長大な尾根にひろがるお花畑						
8月11日～日 コース及び タイム	起床 3:00/4:25～北寒江山5:50～狐穴小屋 6:10/6:25～中先峰6:50～以東岳 7:55/8:15 ～狐穴小屋 9:40/10:00 ～天狗角力取小屋14:00						
標高差	△	m	m	=	m	体力度	1・2・3・4・⑤・6
	▼	m	m	=	m	技術度	1・2・③・4・5・6
						展望度	1・2・3・4・5・⑥
CL 嶺	後藤隆徳	51	未踏と思つた以東岳は登つて、泊まつたと思つたのは狐穴小屋なく天狗小屋だった。				
SL	大根田禎	62	第二のメイン 以東岳は良い山。大鳥池は神秘的であった。				
	高岡八代	60	今日も一日長い山歩き。以東岳はかた。				
針	来生博子	48	あの尾根を歩きたい。美しい稜線を踏んだ。				
	河合依代	51	以東岳から天狗角力取小屋泊 きっかけ～。				
	飯塚周一	56	大朝日から以東岳へつづき稜線散歩は素晴らしい				
針	加藤秀子	48	花の美しさにスライド撮影が忙しい				
3	当初計画では、大朝日小屋泊・狐穴小屋泊の計画であったが、不順な今年の天候に7日の大雨で朝日鉱泉への林道が土砂崩れで入れず一日順延。昨日は2時間稼いで竜門小屋泊。今日も4時間延長して天狗角力取小屋まで行く事に昨夜のミーティングで決定。今日も10時間の行動予定。気合を入れて歩こう。						
目	<p>竜門小屋を出発。東の空が茜色に棚雲を染め、夜明けのオートを始めた。太陽の輝きを明るく映している。オホーツク高気圧の影響下にあるのか風がヒンヤリと心地良い。昨日と同じオーダーで、緩やかに起伏する長大な尾根を以東岳へと目指す。鳥が一声。すかさず来生さんが反応『お早う』。南寒江山（寒江山はきずかぬ位のピーク）、北寒江山、三方境を経て狐穴小屋へ。小屋の前は何やら人ばかりで大賑わい。何かと思ったら狐穴小屋へ泊まった2パーティ（男子・女子）の学生山岳部員が出発準備で右往左往しているだけだった。か綺麗に並べられた大きなザックと若人で小屋の前は満杯。我々はザックをデポ、身軽になり以東岳へと向かう。</p> <p>以東岳はこれ又大きな山でファインダーを一杯にしてしまう。コースタイム行き2時間40分。帰り2時間10分の稜線に行く。後ろには、昨日と今朝歩いた大朝日岳からの朝日軍道（戦国時代の軍事用連絡路）と呼ばれる道が続く。この冬は降雪量が少なく、雪渓が見られず今一つ残念な所ではあるが、ガイドによればこの山岳地帯は、冬の偏西風による大量の降雪があり夏遅くまで残る雪が、お花畑を、ブナ林を又山上の池塘を潤し谷を削っているような。又、豊富な水が我々のザックを多少軽くしている。</p>						

1,514mの岩を過ぎ以東岳山頂へ。気が逸りオーダーを崩して頂上へ走る。やはりCL・加藤さんは早い。山頂着。すると景色が一変。西側に大きな山塊が急に現れた。今まで、飯豊の大日岳だと思って眺めていた山の又その上にある。飯豊を包み隠していた雲の高度より上に来たのだ。あらためて昨年登った飯豊連峰を確認。北に月山、その左に鳥海山、岩手山も、随一の展望を満喫。VSOPが甘く感激の乾杯。

足元に大鳥池が青黒く湖面を見せている。大根田さん《つり吉・三平》の『タキタロウの棲む池だよ』。かって三平は見ただけで、この大鳥池が言われるまで気がつかなかった。さすが担当者、良く調べてある。お蔭で安全登山が出来ると《タキタロウ》にも乾杯。10分程遅れて河合さん到着。あらためて記念撮影。

再び狐穴小屋へ。昨夜竜門小屋で同宿だった単独の長野の青年と又出会う。女の子かな？と思わせるような優しい顔をしているが、山が好きで仙台から長野へ移り住んだという位、実行力のある青年だ。これから以東岳を往復して狐穴小屋で一泊、古寺へ下山。というゆっくりのんびりコースでまわり、そして仙台へ帰省するという。CLとの間はず語りの会話の中で、山スキーをやってみたいと言っていた。そんな佐古泰司君の事をCLは『名前は何だっけ？タコ？イカだったっけ？』と盛んに言っていた。いくら海の幸に飢えていたとはいえ、それはないよね。小屋前で地元の西川山岳会・小屋番の佐藤辰彦氏と記念撮影。因みに佐藤氏が掲げた、地元の有名な書道家が書いたという小屋の看板の狐穴は「狐穴」だった。

天狗角力取小屋（てんぐすもうとりこや）迄は幾つものピークを登降しながら高度を下げて行く。この尾根は北東に延び、非対称山稜と呼ばれる地形。大量の雪により風下側の南斜面は浸食され、急峻な地形となり、花崗岩が露出し深く谷を刻み、足元より切れ落ちている場所が何カ所かあった。CLを先頭に声を掛け合い慎重に下った。歩きながら思った。山登歩の浅草岳の滑落事故もこんな場所で発生したのでは・・・と。実際、足元の草付きの下に谷が透けて見える所が何カ所かあった。運悪くか、注意が足りなくてそんな所へ足を置いた為にと、次の足は何処へ置こうかと、視線を足元と前方と交互におき慎重に歩く。計画を変更して良かった。悪天候の早朝、此処を歩くのは極めて危険だ。

天狗角力取小屋へやっと到着。非常に疲れた。最後の登り返しがきつかった。小さな源頭で水を補給。小屋は貸し切り。くつろぐ。昨夜飲みすぎて今日は入らない。CLだけ快調。すぐ夕食にする。生姜をすって作ったつけ汁にソーメンはツルツルと喉越しがよい。瞬く間に終わってしまった。次はカレーだ。丸のニンニク、銀杏とナス、人参・玉葱と、たっぷり野菜の入った豪勢なカレーだ。だが辛い。辛い。一口食べたCLは『昨年の失敗が何も生かされていない。不味くはないが、辛くて食べられない。まったく〜』とぼこつく事しきり。但し、冷や奴をメニューに入れたのは偉い。と下げられたり、上げられたり食担当になると大変だ。賑やかな食事が済み、身体を温め横になると疲れているせいか、すぐ寝息に変わった。夜半9:00屋根を叩くような激しい雨音と風音で目が覚めた。ときおり稲妻が光っている。ひどい降りだ！あらためて此処まで頑張った良かった。

12日

振り返りはあの尾根を全部歩いた。感激！
今年の夏も終了だ。良い思い出と共に



西川町バス停
橋本やで飲んだビール 30分9本なり
頂いた白いごはん、フケもの、残りものサシ
うたに様に食べまくった。

古寺から朝日町
新道は土砂くず
通行不可だった

古寺から朝日町

山名	天狗角力取山(1376m)		報告者	河合依代		
この山のセールスポイント	頂上は平らで天狗が相撲を取った場所という伝説がある山					
8月12日～コース及びタイム	起床3:00/天狗小屋発4:30～南俣沢出会7:25～原(橋本民宿)8:10/出発(タツ)8:50→朝日鉱泉9:40/出発9:55～いもかわ温泉10:47/出発14:00→白河17:40/出発24:00→裾野市役所4:40					
標高差	ΔS	$\sim T$	=	m	体力度	1・2・3・4・5・6
	▼T 天狗角力取山～G原(大井沢)=936m				技術度	1・2・3・4・5・6
CL 後藤隆徳	51	ｽｷﾞな天狗小屋が良かった			展望度	1・2・3・4・5・6
SL 大根田元男	62	大雨の中、下山できてよかった				
	飯塚周一	56	無事下山、2杯の銀ｼﾞﾘが美味だった			
	生来博子	48	どしゃ降りの下り坂は3つの沢を超えた			
	高岡八千代	60	今年の夏山も最高だった			
	加藤秀子	49	雨の中の下山、里の温かご飯は美味い			
	河合依代	51	初参加、3日間頑張った自分を誉めたい			

3
日
目

昨夜からの風雨、多少弱まったものの山に入ってから食欲のない私、一晩中、胃痛、腹痛に悩まされ目覚めた。「果たして、この雨の中歩けるだろうか、少しでも何か口に入れないと…、とにかく4時間頑張ろう!!」と自分に言い聞かせる。

当たりが白々と明るくなり、予定通り4:30分雨の中出発天狗小屋を出ると行き成り上りだ、雨水が滝のように流れる坂道を「1.2.3.、1.2.3」と口の中で呟き、自分の足に号令をかけながら登る。上りきると、所々田んぼだ。足を取られないように、堅そうな所を選んで歩く。暫く行くと岩盤の下りに差し掛かった。「岩で滑りやすいから気をつけて!!」CL(後藤)の声、滑らないように気をつけて進む、私の二つ後ろにいた高岡が、右側の斜面に寄りすぎ、足を滑らせ二回転しながら転がり落ちた。段差があまり無かったのと、草の上だったので怪我も無く、大事に至らぶ良かった。「疲れている時、事故が起こり易いので記をつけるように!」、後藤CLより、叱責が飛ぶ。私は特に疲労満杯なので気をつけなければ…と自分に言い聞かす。

高岡さん!! 角力取山で天狗と相撲を取ったのかな?

下りは良いが、上り返しがきつい、自分に号令をかける。よくしたもので、一時間位歩くと足も重くなり、お腹に力が入らなくなる。「1本!!」の声で休憩となると締める。力に成る物を口に…と思うが、胃が痛くて食べたくない、水を飲み、飴を口に入れ出発。後、3時間ガンバレ

竜ガ池は何処かな…池らしき物が見当たらない。何時の間にか通り過ぎてしまったらしい。途中、豪快な滝を見、沢を渡り、坂を登り、又下る。雨も上がってきたので雨具を脱いだ。歩きやすい。

「ワア…」前を歩く後藤CLの驚きの声、何かと覗いたら、お化けの様な大きいキノコ写真を撮る。暫く行くと「ワア…」又、後藤が叫ぶ。同種類だが先ほどより更に大きい、直径15cmは優に有り、オレンジ色で奇麗ではあるが、見れば見るほど気持ちの悪い大キノコだ(スライド写真を撮ったので、後日、会員の方も見る事が出来ます。)

バカ平付近で、登ってきた4人の男性に出会う。彼らは、我々が下ってきた道を上り天狗角取山の天狗小屋に今夜は泊り、溪流つり(ヤマメ)を楽しむそうだ。釣り道具一式、食料、



俳句集

（つ）が天
ぱ>アJ語
げゆはゆ
る気持ち
六出ひ会出
おし本鋪
き事つ来出
走喪陣、裏
脚此、この
さ水河台が
平と入と
りに自分
ひてべや
たての間日



を合せ入る胸へ夕
一風機に立つ 顔の
夕焼けや 名花
。もまは土J中、はひもふこ



(上) 孤
狗

ビール、着替えなどでリュックは20kg以上とのこと。4人共、子供のように目をキラキラ輝かせ嬉しそうに話してくれた。本当に好きでなければ、態々、奥深い山に入り釣りなどしないだろう。余程大物が釣れるのかしら……。

南俣沢出会に出た。ここで一息入れ、原のバス停まで一気に歩く。先発隊(後藤、加藤、高岡飯塚)が、民宿「橋本」を見つけ、ここで、ジャンボタクシーの手配をする。タクシーを待つ間無事、下山出来た事を祝い、ビールで乾杯 !! 美味しい、漬物が美味しい。加藤、上がり込み朝ご飯を調達、刺身まで戴く、「美味しい、美味しい」とパクつく、飯塚はお代わりをして2杯も食べた。生来の為に、加藤、おにぎりまで作る。見ていて惚れ惚れする。「サバ缶が食べたい」と後藤、加藤が台所からサンマの缶詰を見つけてくる。朝からビール8本、漬物、刺身、ご飯は有った物をほとんど平らげた模様。聞きしに優る兵士よ !!

ジャンボタクシーで山越え、途中、土砂崩れ有りUターン、旧道を通り朝日鉱泉へ、我々が愛車にて三日間のアカを落としにいもかわ温泉へ、お風呂に入り、アユの塩焼きで一杯、冷やし麺を食べー眠り、今日の宿泊地白河へ、夕食を食べ、駅近くの空き地にて、女性は車男性はテントを張りそこで眠る。24時近く雨音で目覚め、慌ててテントを片づけ白河を出発明朝(13日)4:40分頃裾野市役所に到着。

後藤、加藤、両氏に感謝。眠い中、運転お疲れ様でした。

3日間、初心者の私のペースに合わせて歩いて下さった皆様に心よりお礼申し上げます。本当に有難うございました。



文井沢の民宿「橋本荘」の玄関で下山完走祝いのビールをのむ

装備計画の総括

後藤隆徳

長い縦走、年齢、小屋泊りを考えシュラフレスとし、着替え等も工夫し最大限の軽量化を計った。

- ①個人装備は全員10Kgだったので無駄な物は無かった。これに共同装備のコンロ大2・ガソリン2L・レスキューセット・医薬品・無線機・コッヘルセット・一眼レフカメラ2が加わる。
 - ②シュラフレスとし、シュラフカバーで対応した。昨年、飯豊連峰で経験済みだったが竜門小屋泊は高度があり、ヤマセが吹いていたので気温低く寒かった。個人差もあるようだ。
 - ③燃料はコンロ大満タン込み5回で1L強で昨年と全く同じ。計画は2Lだったがこんなものか。ブタンコンロは持参しなかった。
 - ④ポリタンは全員3L物で正解だった。
 - ⑤着替えは冬用のオーロンの上下のみだったが充分だった。
 - ⑥3日目、梅雨末期の豪雨にあったがラジオが必要だった。
- ※全体的に昨年の経験は生かされ、出発前の『荷合わせ』も良かった。

食料計画の総括

加藤秀子

昨年の経験を生かし、尚且つ更に、夏の炎天下をベストコンディションで歩く為にはどんな食計画にするか。体力増強を考慮し計画をたてた。

- ①牛の霜降りをニンニクたっぷりで漬け込み、大根卸して食べたのはサッパリとしていけた。
 - ②トマトスープはトマトが路地物が欲しかったが、無かったので桃太郎にしたのが失敗。酸い気が足りずトマトの味がしなかった。美味しいと喜ばれたが、酸い気のあるトマトスープを食べさせたかった。
 - ③生姜を効かせたソーメンの汁は食欲減退気味に大好評。
 - ④山で冷や奴？山で蒲焼？真空パックの威力を発揮。日持ちが良く酒のつまみにもO・K。うなぎは柔らかく美味。活力源となった。
 - ⑤カレーは辛くて不評であった。私は甘口と辛口の中間で中辛にしたのだが、まだ辛くて一般的な甘口にすべきだったとの意見が多かった。
 - ⑥行動食は暑さと疲れでパサパサ物は受け付けまいだろうと、ゼリー物を主にした。加えて一人分のアルファ米の味付けご飯。袋のまま持ち運びができ容器が要らずこれはめっけ物だった。
 - ⑦ビールは竜門小屋は800円で18本飲み、体力回復に役立った。天狗小屋は無人でビールは無い。狐穴小屋から800円を11本買って運んだ。
 - ⑧日本酒は男性が5合×3、他赤ワイン1.8 運んだ。
 - ⑨今年の普通のミカンは柔らかく、昨年の品種は不明だが硬い物の方がもちが良い。食後の果物(梨・リンゴ等)は定番にしたい。
- ※今年はカレーを除いては、比較的喜ばれ食料担当者としてはやり甲斐があった。(但し、小屋泊分まで食料の計画をしてしまったので1日分余ってしまい、その分余計な荷重を背負わせて皆に迷惑をかけた) 深謝。